

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を踏まえて、初年度に事業所独自の理念を掲げている。正面に掲示し、いつでも確認できるようになっている。理念を達成するため、毎年職員全員でユニット目標を立て実践している。	事業所の理念を具現化するためにユニット毎に職員が話し合い、利用者を思いやり安心して楽しく過ごせる目標を掲げ年度末に振り返り、目標の達成を評価し次年度の目標につなげている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の一員として、地域の行事や清掃活動に参加したり、回覧板を回してもらい日常的に交流が持てている。	町内会に加入し、回覧板から情報を得て地域の行事や清掃活動にも利用者と一緒に参加している。小学生が帰りに寄ってくれ中学生が体験学習で職場見学に来たり園児やボランティアの慰門を受け入れ、地域との付き合いを大事にしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の参加者である、自治会長や民生委員に認知症ケアについて情報提供を行っている。また、行政からの依頼により介護教室に協力し、管理者が講演したり、市民の施設見学を受け入れている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月開催で活動状況報告を行っている。また、意見交換では利用者の家族からの要望や、他の出席者からは気づいた点をあげてもらい日頃のサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は行政職員、区長、民生委員、利用者・家族の代表がメンバーでありグループホームや認知症を知ってもらい、意見交換している。災害時の協力関係づくりをしたらどうかという提案がある。学校や消防署にも働きかけたいと考えている。	運営推進会議を活用して、区長や民生委員、PTA、消防職員等の協力を得て地域との繋がりを深め、利用者の安心・安全を確保するとともに更なるサービスの質の向上に期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議を中心に、市の担当者から適宜指導、助言をいただき良好な関係を築けている。	行政の担当者とは事ある毎に連絡や相談をしており良好な関係にある。市民からの問い合わせに対して当事業所を紹介してもらったり、行政の依頼で介護教室を共催したこともある。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を行っている他、マニュアルがいつでも確認できるようになっている。常に危険を予測し見守りや連携を大切にしている。	日中は玄関を開放し、室内にはセンサーが取り付けられてあり利用者が出て行きたい時は職員も一緒に出ている。基本的には行動を抑制することはないが、ことばの使い方等気になる時は事例を用い検討している。	
7	(5-2)	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行っている他、マニュアルがいつでも確認できるようになっている。職員との個別面談やカンファレンス等を通して職員間のコミュニケーションを図り、利用者の心身状態を把握し防止に努めている。	身体拘束と共に研修を行い防止に努めており、利用者ひとり一人の状況により言葉使いも方言が良い時もあり、馴れ馴れしすぎることあり、利用者に応じて使い分けている。皮膚にアザがあった時等は状況を確認し、家族とも情報交換している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修の機会があり、代表の職員が参加し伝達することができた。個々のケースについては、家族、主治医、簡易裁判所、社協職員等と連絡を取り合い支援できた。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用パンフレット、重要事項説明書、契約書、個人情報使用同意書、他に入居時確認事項説明書を丁寧に説明し、理解していただくよう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置し、どなたでも自由に意見を述べられるようにしている。また、運営推進会議で利用者及び家族等から出された意見や顧客満足度調査の結果を謙虚に受け止め、改善できる点は適宜見直している。	意見箱は設置しているが直接行ってくれる家族が多く、家族からの意見で、事業所の行事案内を早く知らせてほしいとのことから年間計画を提示しており家族が参加しやすくなった。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議、ユニット会議の開催の他、個別面談を随時行っており、意見や要望を取り入れるようにしている。	職員は意見や要望があればいつでも管理者や計画作成担当に話している。毎月のユニット会議や毎朝のミーティングでも問題があればその日のうちに解決するようにしている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のスキルアップ研修、資格取得など支援体制がある。個々の努力実績や勤務状況などを評価し、今後の業務に繋げていけるようにしている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部研修は積極的に行っている。研修資料は常に確認できるようにしてある。出来るだけ多くの職員が外部研修に参加できるよう調整している。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りは出来ていないが、他事業者の職員研修を受け入れ、意見交換や交流の機会が持っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時に時間を多く取ったり、実際に施設に見学に来ていただき、本人と接する機会を多く持つようしている。また、生活歴を伺うことで、入所後の生活の不安解消に努め、安心や信頼関係を築けるように心がけている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接時に時間をゆったりと取り、生活歴や現病歴を伺うことで家族の思いや不安を受け止め、事業所に対する要望等を述べやすい雰囲気作りに努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接時に本人や家族のニーズを的確に把握できるように、総合的に捉えられるアセスメントツールを用いて課題分析を行っている。その他のサービス利用の必要性があれば関係機関と連絡調整できる体制を取っている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各自の生活能力や得意な事を見極め、調理、掃除、裁縫、買い物、農作業など一緒に行い利用者から学んだり、支え合う関係が築けている。		
19	(7-2)	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	帰宅願望が強い方の場合には、事前に了解を得て適宜電話を掛けさせていただいている。年末年始やお盆などには外泊したり、体調不良時には家族に宿泊していただいたりと共に支えていける関係が築けている。	家族が負担にならない程度に利用者の支援をしてもらい、関係が途切れないようしている。毎月広報誌を送付時に利用者の様子を知らせたり、熱のある時家族が一晩付き添い介護したりと、共に支えている。	
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、友人、近隣の方々の面会を歓迎する他、適宜家族と地元へ出かけてお祭りに参加したり、行きつけの商店で買い物や食事を楽しんだり出来るよう支援している。	ホームセンターやコープに買い物に行き、近所の人や同級生に会って立ち話をしたり、馴染みの理・美容院に行ったり、毎年祭りや花見にも出掛け馴染みの関係が続いている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的なカンファレンスや事例検討を通して、個々の性格や特徴を把握して協力して作業を行ったり、家事を分担できるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	在宅に戻られた方や、他の施設に入所された方等には、必要に応じて関係機関と連携を取りながら相談や支援に努めている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回面接時及び日頃の生活の中で、個々の要望を的確に把握できるよう努めている他、定期的なカンファレンスを通して情報の共有に努めている。	個々の意向に添い、園芸作業・手芸品作りの他、昨年より職員と一緒に自分史としてアルバム作りをしている。昔と今を比べながら、会話に出て来る所の写真を貼ったり、楽しみながらの作業は、家族にも好評である。	
24	(9-2)	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に家族や親戚、ケアマネ等から情報収集を行い、負担のない範囲でセンター方式の一部に記入をお願いしている。	入居前から何かしらの介護サービスを受けており、月1回位、介護支援専門員や家族から情報収集している。プライバシーを考慮に入れ、ケアに生かせる様、細部に関してまで具体的に情報を伝えてもらい、地域の人の力も借りながら継続的に行っている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	定期的カンファレンスを開催し、心身の状態や有する能力等の把握に努め、随時介護計画の見直しを行っている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族がどんな生活を望まれているか、またそれを可能にするために我々に出来ることは何かを常に意識し、地域の一員として生活していけるよう、面会時や手紙、電話等で連絡を取り合い計画を見直している。	アセスメントでの情報と家族の意向をもとに、職員全員で月1回カンファレンスをしている。利用者がその人らしい生活が送れるよう、関係者全員の意見やアイデアが反映された、介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の利用者をより深く理解するために、気になる点は具体的に介護記録に残し情報を共有しながら、カンファレンスや計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設されているDsとの交流や身体の状態に応じて、Dsの送迎車を使って外出支援(受診、買い物、ドライブ等)を行っている。また、外出困難な方の場合には出張理容をお願いしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の参加者である自治会長や民生委員とは会議を通して、定期的に情報交換を行い日頃から協力体制が出来ている。消防署は火災訓練の際協力いただいている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科の協力医による月一回の往診の他、在宅当初からの主治医への定期受診や必要に応じて専門医の受診を支援している。	利用者や家族との話し合いで、かかりつけ医か協力医か、希望に応じて受診している。日常の様子は事業所で把握している為、受診や通院介助は職員が対応しているが、必要に応じて家族の同行もあり、情報の共有はなされている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	計画作成担当者が看護職であり、日常の健康管理や協力医、医療機関との連絡調整がスムーズに行えている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は本人、家族の同意を得て介護情報提供書を提出し、安心して入院生活が送れるように努めており、主治医より治療方針の説明を受けている。退院前には医療機関を訪問し、情報収集を行いスムーズに入所生活に戻れるよう連携が取れている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の際、終末期の対応について家族の意向を確認しているが、今のところは施設で終末期を迎えたいとの要望は受けていない。	事業所内で出来る事を明確にしており、利用者の状態に応じて段階的な支援を行っている。重度化の事例は無いが、利用者、家族、かかり付け医と話し合い、全員で方針を共有している。	
34	(12-2)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回普通救命講習を受けているが、定期的に反復して技術を磨く訓練は行っていない。誤飲時や転倒骨折時を想定して看護職員の指導を受けて応急手当や初期対応技術を適宜磨いている。	応急手当や初期対応のマニュアルは整備されている。医師・看護師・又は消防署よりの研修も行っているが、初期対応の訓練を含め、実際の場面で活かせる技術には至っていない。その為不安に思う職員もいる。	応急手当、AEDや初期の対応など、すべての職員が定期的に訓練を行い、その後の連絡、対応方法などについても想定し、体験、習得出来る様周知徹底を図っていかれることが望まれる。
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練のみは定期的に行っている。近隣住民、自治会長、地元民生委員には入所者の状況を理解していただいている。備蓄や防災セットを用意し、いつでも持ち出せるようにしている。	災害を想定した実践的な訓練は、昼夜を通じて取り組んでいる。備蓄や防災セットの物品類も準備してあるが、隣接する同事業所内の施設とは共同訓練はなされていない。	職員だけの誘導の限界を具体的に確認し、訓練を繰り返すことが大切だ。いざという時、慌てず確実に出来る様、地域住民の参加・協力を得ながら、年間を通じた定期的な訓練を繰り返すことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報保護マニュアルを整備し尊厳を支える個別的なケアを提供できるように努めている。排泄ケア時の言葉かけや対応に細心の注意を払っている。記録は目に触れないように注意し又情報を外部に持ち出さないよう徹底している。	年長者としての人格を尊重し、言葉掛けの語調など強くないよう注意している。記録物は少し離れた所でさりげなく記録し、部屋の前の名札も本人が描いた絵等で利用者が認識出来る様、取り組んでいる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全体的には年間のレクリエーション計画や野菜の作付計画など利用者と職員が年間計画を立てる機会を設定し、利用者の要望や自己決定を支援している。また、嗜好の好みを尊重したり、更衣時衣類の自己決定を尊重し支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムを尊重し、食事や入浴時間など本人の希望を優先している。居室で過ごされたい場合はその思いを尊重し支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理美容院に出かける際の外出支援の他、外出困難な方には出張サービスを受けられるよう支援している。また、男性の場合は髭剃り、女性の場合は整髪等の細やかな支援に努めている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の購入に出かけたり、下ごしらえや片付け等協力していただいている。個々の嗜好を尊重した献立を工夫したり、肉類の嫌いな方には代用食材で対応している。また、行事食と一緒に調理し楽しんでいる。	栄養士が献立を作り、それに添って各ユニットで作っている。年間行事では特別に好きなものを作ったりして、食事を楽しみなものとしている。食事を作る一連の作業は、食事への関心を引き起こす為にも、出来る人にはしてもらっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	標準体重に基づき主食量は個々に計測しており、栄養とカロリー両面で配慮されている。水分は活動内容、体調や気候によってスポーツドリンク等で十分摂取できるよう配慮している。自立摂取が困難な場合は介助し摂取量の確保に努めている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じて起床時または、毎食後、口腔ケアの促し見守り介助を行っている。夜間は義歯洗浄を行っている。必要時歯科受診の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じてリハビリパンツやパットを使用しているが、定期的なトイレ誘導やトイレ同行等で失敗を未然に防ぐように支援している。また、必要に応じて居室内にトイレを設置し、負担なく排泄できるよう支援している。	排除チェック表あり、日中は全員布パンツにし、一人一人のサインを全職員が把握し、さりげなく配慮をしながらトイレ誘導をしている。夜間は睡眠や冷えなど考慮に入れ、紙オムツの使用など無理せず自立に向けた支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便困難者には、介護計画に起床時の冷水飲用と散歩や歩行練習、体操等を盛り込み実施している。また、必要な方には排便チェック表を作り、食後の排便習慣の確立に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の希望を尊重し、毎日入りたい方や隔日の希望などに合わせている。入浴時間は昼食後～夕食前まで幅を持たせて対応している。	一人ひとりの希望に添った入浴が行われている。現在は午前中や夜間の希望者はいない。同姓介助希望される利用者にはそのように対応している。1対1での浴室では、リラックスでき本音が聞かれる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝、就寝時間、起床時間については、個々の生活リズムを優先しており、必要な方には、入床時傍に居て安心していただけるよう配慮している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期処方及び頓服薬については処方箋をいつでも確認できるように事務室にファイルしている。処方内容が変更になった場合は申し送りを徹底し、症状の変化に注意し対応している。投薬時は本人と処方薬が一致していることを十分確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や能力を参考にして、買い物、調理、掃除、手作業、農作業、園芸作業等に参加していただいている。お誕生会には、本人の希望するメニューを用意し楽しんでいただいている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候の良い日は近くの神社や保育園、商店街等に出かけている。また、地元のスーパーやホームセンターに買い物に出かけたり、家族と共に外食したり、地元のお祭りに参加したり出来ている。	外出は職員、利用者共に 気分転換やストレス発散の機会ととらえ、お茶飲み・花見等時間が有れば、出るようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お小遣い程度の金銭を所持し、自己管理している方については必要に応じて、買い物支援を行っている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>家族に電話を掛けて声を聞いて安心される方には、その取次ぎを支援している。また、年賀状や暑中見舞いの他、本人が望まれる際には郵便物の宛名書きやポストへの投函等を支援している。</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ホールには地域の風景や行事の写真、手作りカレンダー等を飾って明るい雰囲気を作っている。自然光を取り入れ季節毎のお花を飾っている。ソファや和室で気軽にくつろげるようにしている。</p>	<p>フロアの一角は畳敷きになっており、段差もなく、ソファが置かれ、利用者同士の会話がはずんでいる。季節を感じさせる花や絵、手芸品等すっきりした掲示は配慮が見られ、自宅でのんびり、くつろげる、雰囲気がかもし出されている。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>窓際に椅子を設置し、いつでも外を眺められるようにしたり、ソファでくつろげるようにしている。</p>		
54	(20)	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入所される際には、馴染みの家具や品物の他ご家族の写真を持ち込んでいただき、家庭に近い雰囲気を作れるように配慮している。</p>	<p>居室は明るく陽射しも多い。利用者は家族と相談の上長年使い慣れた、ベッド、テーブル、家族の写真等思い出の品々を持ち込み、自宅の暖かさそのまま居心地良い配置となっている。</p>	
55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>建物全体に手すりが設置されており、安全に移動出来るように配慮している。また、各居室への名前の表示やトイレの表示の他、トイレと居室の区別がつかず混乱される方には必ず同行し配慮している。</p>		



サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 該当するものに 印		項目		取り組みの成果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと	
		3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					